

地域連携の あり方を問う ——座談会——

埼玉県立小川高校 教頭 篠田俊文

熊本県立熊本工業高校 土木科科長 猿渡和博

宮崎県立都城西高校 フロンティア科主任 福田映李

「社会に開かれた教育課程」を実現する上でも重要な「地域連携」。先進的に地域連携に取り組んできた3校の教師が、あるべき地域連携の姿と、その実現に必要な視点について語り合った。

現状整理

取り組みが広がる一方で、 課題も多い地域連携

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて必要な地域連携

編集部 新学習指導要領における重要な事項の、すべての基盤となる考え方が、「社会に開かれた教育課程」です。それは、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、連携・協働しながら、生徒に必要な資質・能力を育むこと

を目指すものです。近年、多くの高校が、学校や生徒にとって身近な社会である地域と連携した教育活動、いわゆる「地域連携」に取り組んでおり、『VIEWnext』高校版の読者モニターを対象に実施したアンケートによると、半数近くの学校が地域連携を行っていることが分かりました。例えば、「総合的な探究の時間」などで、地域の問題解決に取り組むことは、

「社会に開かれた教育課程」の1つの形と言えるでしょう。

しかし、現場の教師からは、地域連携における課題として、次のような声が上がっています。

現場の声① 「特定の教師に負担が集中している」

現場の声② 「一部の教師の取り組みであり、学校の取り組みとしての持続可能性を感じられない」

現場の声③ 「取り組みの意義を理解していない生徒、教師がいる」

現場の声④ 「負担が大きい割には、成果が見えにくい」

現場の声⑤ 「地域が生徒を『人手』と見ているように感じ、学びに結びつく活動になっていない」

どのような地域連携を目指せば、①～⑤のような声を生むこと

なく、取り組みを推進していけるのか、そして、あるべき地域連携を実現するために必要な視点はどのようなものなのか。地域連携を先進的に実践してきた3校の先生方と考えていきたいと思います。

先進的に地域連携を進める
3校の実践から学ぶ

編集部 それでは、3校の先生方に、それぞれが実践している地域連携を簡単に紹介していただきます。

埼玉県立小川高校・篠田俊文 本校では、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（地域魅力化型）の指定を受け、地域人材の協力を得ながら地域の

教育資源を活用し、探究的な学習に取り組む「おがわ学」を、「総合的な探究の時間」や各教科の授業等において展開しています。小・中学校、高校と、連続性を持った取り組みであり、専用ホームページを立ち上げ、ワークブックや授業動画も公開しています（*）。

熊本県立熊本工業高校・猿渡和博
文部科学省「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」事業の

埼玉県立小川高校



教頭
篠田俊文
しのだ・としふみ
教職歴22年。同校に赴任して2年目。

◎学校概要

進学選抜クラスと普通クラスを設置し、それぞれの希望進路の実現を目指す。全国大会23年連続出場、少林寺拳法部、全国大会常連のグローバルメディア研究部（放送部）を始め、部活動も盛ん。

設立 1925（大正14）年

形態 全日制・定時制／普通科／共学生徒数 1学年約200人（全日制）

2021年度進路実績（現役のみ） 4年制大は、城西大、駿河台大、国士館大、大東文化大、拓殖大、東京国際大、東京電機大、東洋大、立教大、立正大などに延べ60人が合格。短大・専門学校進学94人。就職29人。

指定校である本校では、土木科、建築科、インテリア科の3科において、産学官協働により「災害対応型エンジニア」を育成する教育プログラムを開発しています。授業ではなかなか接する機会がない新技術、そして、企業や大学が取り組んでいる課題や、職業人や研究者が注いでいる情熱に生徒が触れられる場を目指しています。

宮崎県立都城西高校・福田映李

熊本県立熊本工業高校



土木科科長
猿渡和博
さるわたり・かずひろ
教職歴33年。同校に赴任して11年目。工業科。

◎学校概要

明朗真摯・創意工夫・友愛協調を教育綱領に掲げる。春・夏合わせて計43回の甲子園出場を誇る野球部など、全国大会への出場経験を持つ部が多い。

設立 1898（明治31）年

形態 全日制・定時制／機械科・電気科・電子科・工業化学科・繊維工業科・土木科・建築科・材料技術科・インテリア科・情報システム科／共学生徒数 1学年約400人（全日制）

2021年度進路実績（現役のみ） 国公立大は、佐賀大、熊本大、大分大などに9人が合格。私立大は、専修大、東海大、東京農業大、関西大、福岡大などに延べ48人が合格。短大・専門学校進学48人。就職272人。

2021年度から「総合的な探究の時間」で、地域をフィールドにした探究学習を展開しています。1年次に探究学習の進め方などを学んだ上で、2年次に企業と連携し、社会問題の解決について探究します。地方公立高校の普通科では、少子化や学区制の撤廃などで生徒の多様化が進んでいます。生徒には、主体性を発揮し、学び続けるために必要な自己肯定感を育

宮崎県立都城西高校



フロンティア科主任
福田映李
ふくだ・えりい
教職歴12年。同校に赴任して7年目。理科（生物）。

◎学校概要

校訓に、理想（Ideal）、優雅（Grace）、自主自律（Independence）を掲げる。フロンティア科は、探究学習やハイレベルな授業を通じて、グローバルに活躍できる研究者・技術者の育成を目指している。

設立 1962（昭和37）年

形態 全日制／普通科・フロンティア科／共学生徒数 1学年約240人

2021年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、九州大、熊本大、宮崎大、鹿児島大、北九州市立大、宮崎県立看護大、宮崎公立大などに42人が合格。私立大は、専修大、東海大、久留米大、西南学院大、福岡大、南九州大などに延べ183人が合格。

むための1つのチャンスにしてほしいと考えています。

編集部 3校の取り組みの詳細な内容を次ページからの実践紹介でお伝えした上で、12ページからは、3校の取り組みも踏まえながら、地域連携はどうあるべきか、そして、**現場の声①⑤**のような課題をどのようにして乗り越えていけばよいのかについて、3校の先生方とともに考えていきます。

先進的に地域連携を実践してきた
3校の取り組みの詳細を、次ページから紹介

*「おがわ学」ホームページ <https://sites.google.com/center.spec.ed.jp/ogawagaku/>